



源氏抄
おろし
しりし
二





すりりせ 二

おろくまの并なみれおやあとのつくと名とせ
り今上れは個ゆづり薫たおのちりり
あまももろりあひり

冷泉院いそゆり時ぬく

古事物語 是実まことなるまをこれおきれつふせよとく時り時ぬく

女一の文 母ははの教あづかはた改あらたたれ娘むすめ弘ひろ徽き教けう女むすめ法ほふ

とすすまをわくれおきりたまあきりりり
りあて女一乃文どうとあふ

やす所のちまうれあ文女二の文

雲居抄

二十一



もやとあハ無思^{ひか}お^らハ^ら娘^{むすめ}冷^{ひや}水^{みづ}洗^{せん}女^に洗^{せん}と
尸^し骨^{こつ}行^ゆ何^{なん}れ^れ出^でる^る冷^{ひや}水^{みづ}洗^{せん}入^いり^り洗^{せん}了^り一^いん
交^まハ^ハ妙^{みやく}同^{どう}春^{はる}う^うま^まれ^れの^のま^まら^ら交^まハ^ハ廿^に二^に乃^の交^ま
ハ^ハ洗^{せん}是^こ所^{しよ}所^{しよ}洗^{せん}う^うと^と行^ゆく^く也^や

所^{しよ}れ^れ世^せや^やと^とあ^あり^りう^うと^とま^まく^く
志^しろ^ろと^と能^よれ^れあ^ある^るは^は世^せに^に所^{しよ}に^にま^まら^ら洗^{せん}れ^れあ^ある^る世^せ才^{さい}
もの^{もの}と^とれ^れん^んま^まと^とく^くた^たう^うあ^ある^るま^まく^く
冷^{ひや}水^{みづ}洗^{せん}れ^れは^は方^はは^は弁^{べん}と^とり^りく^く出^でれ^れる^るは^はん^んと^と
と^とれ^れて^てと^とい^いふ^ふ足^あと^とは^はま^まら^らく^く也^や
世^せに^にあ^ある^るは^はあ^あら^らう^うん^んは^はい^いふ^ふか^から^らく^くあ^ある^る

す^すり^りり^りと^とい^いふ^ふれ^れる^るあ^あら^ら卵^{たまご}乃^のえ^えく^くで^で果^{くだ}る^ると^と
果^{くだ}守^りす^すく^くは^は法^{はふ}女^にい^いく^く世^せと^との^のか^かれ^れく^くあ^あり^り
さ^さと^とり^りう^うい^いふ^ふあ^あら^らく^くや^やし^しく^くあ^あり^り
ま^まが^がう^う交^まハ^ハら^られ^れん^んす^すと^とう^うく^くて^てあ^あら^らう^う洗^{せん}ん^ん
と^とれ^れ世^せの^のす^すり^りと^とあ^あら^らう^う也^や
於^お蓮^{れん}物^{ぶつ}の^のか^から^らく^く
ま^まが^があ^あら^らう^う離^りれ^れく^く立^たて^てあ^あら^らう^うの^のす^すり^り也^や
い^いふ^ふあ^あら^らう^う 般^{はん}字^じあ^あら^らう^うい^いん^んと^とあ^あら^らう^う也^や
人^{ひと}の^のあ^あら^らう^うは^はあ^あら^らう^うと^とあ^あら^らう^う也^や

あ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふや^やほ^ほと^とあ^あれ^れの^のし^しと^とを^を
涅槃^{ねはん}経^{きやう}曰^い一切^{いっせつ}衆^{しゆ}生^{じやう}悉^{しつ}有^う佛^{ぶつ}性^{じやう}如^に來^{らい}常^{じやう}住^{じゆ}

淮南子曰墨子見練然而泣之為其可
以黃可也以黑上

阿やうやすげと

風をこまぬす葉はすれはやうやうな人此の
あはうすまのよ およまてく分のうやすま

とひまてともさまうかともいようまあう
給りすやうくた理とあまめ給りよ也

風とてこくゆの機は空をてたうすまは海を
本末空れとりり 外道は因果とてくは善悪
給りしとらうゆりまの取空とて去は佛

はれは即ち遠く大業の空理は後法はあま
因縁よりまはしてく自性も此は身を
相の理は虚を思ふは満く平等也去來生
滅れおなう吾無不二速悟一なるあまは
本末空とつふ又ハ第一空は或ハ般若
乃本空とも名づく此般若の空智は後法
得道のり也法佛空相乃妙理とつふま
この空理を信ふはあまは法華經曰諸法
從本末都自常滅初也 維摩經曰
成就一切諸法而離諸法相

是の如しものいふものよの紫ハ二世の如母とこそまゝ
 山の産主とありて きれはるる名も 養ふこの
 夕霧と春の多ひ 町よは産とつるあじのハ
 何探ねがひつるそなたもうでふりし人なり
 は昨がうかり 山の産主の約まは流る
 つとむる信は昨がうがま 宜れ理とはやる
 のハ稀ぬる井と感とまゐる也
 歎喜乃らまゐる也 徳佛歎喜之眸と
 流るる也
 冷泉流のちや

臣好

二六

行くもくもくうらうらと きれり冷泉流乃如
 山の産主より回る也
 きよぶまらめれなまゝも 冷泉流
 天子れは後よありませハとのこつた飛流も
 ありんくもあつらあり 結つてもそれ人乃
 ちとくよ流るるも 飛流ハあるや
 きらめとハ國同と物のあやまらね也
 年一りれみもくゆもまゐるも
 本朝の宜極まを 醍醐天印をたふも平
 ましとそれるもくせのうらうらとあまも

きつこふらつせうくふまの身とて
まつこふらつせうくふまの身とて
まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

まつこふらつせうくふまの身とて

修定皆愈棄之とつり

わがれもつらき世中と心ひきまかれぬやうに

花人のおぬ 汝はを改たたれぬや夕霧のたれ一糸の

若くらのあまご敷と一もの時わひぐさ

人くおづれ敷束とつら夕霧のたれ一糸の

多し通ひしやてつて又たたれ使わくわがれ

おりの使わくわがれ

つらくうらなきてつらうらうらうのぬえ

冷泉院のつら親し信やまはれり

はたの葉よ国一まはれりして得るは

明とむくよふらう死してまご生とく

まご葉同よまごわくく無類よ

むく類ハリと吾明うりしてまご明ハ

は性の故理すまご海りまごあく

くれとく迷ふ時ハ煩悩葉若れ

まごうてむらくとバは身般若解脱

まごこれ理と見ゆハすハ禪定

はまご法泉院おなりまご

あつひもくくわくは

あつひもくくわくは

まじしあしうれゆくとおぼして

的リキおぼや愛着リキれ川原リキよふき鳴々リキとたぬくまるとは

山寺リキにおれ修リキのたてしあきしも言リキぬしけぞ出リキて

きりく妙リキとて 黙リキ然リキとハ物リキともいふで静リキ

うそりしるまや

ぐんはそまればあがるしあともなれとまると

と物リキ修リキしとも方リキハきぬし 又リキ物リキあまの

まハ食リキ乃リキもしりまぬしとすハ世リキ乃リキつひ

あしり今リキれ心リキそれハわし悟リキ通リキ明リキ了リキハ

目リキ見リキしつらハ然リキ然リキとて様リキ定リキよハすハ

雲リキ淨リキ妙リキ 一リキ九リキ

りくは喜リキ將リキ悦リキれ食リキよりて浮リキ世リキハ食リキを

あしぬもは形リキ乃リキ衰リキ終リキりぬしや

あぐれいふさすしとて 淨リキ戒リキ昨リキハこれ

ともいふし山リキの産リキらぬし

ゆり火リキれすしう体リキあまされて 法リキ華リキ經リキ曰リキ三リキ界リキ

無リキ妄リキ獨リキ如リキ火リキ宅リキ衆リキ苦リキ充リキ滿リキ甚リキ可リキ怖リキ畏リキ

文リキ選リキ頭リキ陀リキ寺リキ碑リキ文リキ曰リキ薩リキ法リキ雲リキ於リキ真リキ際リキ

則リキ火リキ宅リキ最リキ涼リキ 淨リキ真リキ際リキ 實リキ際リキ也リキ

衣リキがしる玉リキりしめえしる

法リキ華リキ淨リキ五リキ百リキ芥リキ子リキあしこの喻リキあり

衣ひらのあともをきてしらるひをあててしらるをれ
いふで衣をと知れんかひもをぬんもある世う
けて物ちりひもなくしの路よ 花人れあるも
あやすとそめはゆてつまりじが流る流るの
岸ざ然れとく物も戸をずかりしとすと
虫しらり又しらりとうくかる也
引ひらかるもあるはははとくらる物ちひもし
幸ゆれの終いひの志らわると死じの金は物ちひもは
大長の中にれ候まと 薰肉大長はある也水水入
候まとの浮舟の中にある也山らの雲う

雲海抄 三十一

薰肉はある也と候まとはある也と候まとはある也
薰肉はある也と候まとはある也と候まとはある也
即化とうあるまとある 中にあるひもある
すくとうてはぐとうとおとくあひもある
あひすもとありしらりとうくある也と候まとはある也
とうめもあるとも也
あやすしとありしらり 日は乃ち物ちひもある
あらくと今もあるとうくある也と候まとはある也
山らの雲うとあるとうくある也
うられみと 今もあるとうくある也と候まとはある也

母ハたはれた娘いすめ弟あに香か殿でん女に侍しやう也なりとづくと
 出いてまるり文ぶんようらるるるはは侍しやうようととあり
 みみととここささん 今いまととれれ后ごうハハたたののはは娘むすめ愛あい業ごう
 殿でんのの女に侍しやう梅うめ之の出いてまるり今いまとと喜き文ぶんれれ時とき
 子こうう終はつりりしし人ひと也なり葉は大だいののををととよよ小せう部ぶををん
 娘むすめ定じやうととりりりりととてて堂だう僧そうととめめりり子このの
 わわりりととよよ所しよづづききららききありありよよううよよありありままひ
 ののよよららんんののとと池い涼りやうししるるんんとと今いまとともも后ごうと
 けけららんんととりりよよつつ事ことととくく源げん氏しれれ定じやうありあり一いししととば
 かりかりりりりりははありありりりひひののかかひひとと下げ物ぶつとと

忠出ちゆうしゅつトトかかががすすもも也なり

二乃にの文ぶん東とう文ぶん一いちははくく舟ふね解とくくととりり

一いち二にのの文ぶんれれああ下げりりととりりはは知しれれとと今いまととれ
 一いち二に三さん乃の文ぶんああ解とりりくく明めい石しやく中ちゆう文ぶんれれはは後ごりりととて
 源げん氏しれれ定じやうののききめめはは孫そん也なり一いち文ぶんハハあありり子これれ出いてまるり母
 御おん生せいありあり同どう出いてまるりよよままらら文ぶんよよ立たちちままりり二に文ぶんハハ夕
 常じやうれれれれととりり中ちゆうのの定じやうととあありりととくく智ちととりりままりり
 りりままりりととりり出いてまるりよよ本ほん部ぶににりりりりととりり終はつりりととれれ文ぶんとと
 喜き文ぶん中ちゆうのの出いてまるり元げん服ふく一いちののひひととりりととりりととりりととりり
 其その上かみととりり養やうれれととくく二に条じやう流りゆうよよわわりりととりり白はく言ごん也なり

これ等もねやぬらよ二の文今よえそりしりて後
まの二の文い喜文よありてせしむる湯佐の
弟も何れは文より文ももきとくしくあけ
りす又二の文もは位れ中り何れこれ文も
湯佐等もすぐれ文智とせりていふ人
内位ハこの文白と部々くゆりてせしむる
とせ給ふ也

いそはるさゆなり井とゆきまもても
今上れは初やつあも一の文もては位よいつあま
らめ一二乃文となさるるをいふてはあ

懐徳坊人の送茶やとれり也

人れあふとまありわりりはる周乃大ま
三人れはひまゝす兄と泰伯次と仲雍并と
季歴とをひる此時ハ般れ政道ととりて周
乃あは徳治りさうりよゆりしハ大まれハ般と
依て周の世りまさりやとありけり泰伯文よ
治りすはる季歴とせりて之りもとありけり
兄さる泰伯の家とあまゝり次ハ仲雍と
又のつと破りしとて同く家とありけり
季の歴よ世は治り季歴れよと昌とをひる

室^{きむろ}周^{しゅう}れ文^{ぶん}王^{おう}の^の昌^{しやう}乃^の子^しと^と發^{はつ}と^と子^しと^と生^{せい}す
あう^{あう}は^は河^かの^の殿^{てん}の^の世^せを^をひ^ひて^て周^{しゅう}れ^れ世^せと^とな^なれ^れう^うされ
ハ^ハ父^ふれ^れと^とぞ^ぞ一^{いつ}升^{しやう}と^と乃^の子^しと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
兄^{あに}二^に人^{にん}ハ^ハ懷^{わい}て^てあ^あら^らう^うを^をあ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^う
世^せハ^ハこれ^{これ}の^のあ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^う
李^り朝^{てう}文^{ぶん}德^{とく}と^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
子^しれ^れ乃^の子^しと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
忠^{ちゆう}に^にた^たれ^れは^は娘^{ぢやう}明^{めい}子^しれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
乃^のみ^みこ^こハ^ハ引^ひ遠^{とん}と^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
あ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う

要後集 三十三

惟^{これ}喬^{せう}の^のみ^みこ^こハ^ハ交^{かう}友^{ゆう}也^や惟^{これ}仁^にの^のみ^みこ^こハ^ハ後^ごの^の末^{まへ}也^や
は^は分^{ぶん}れ^れう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
分^{ぶん}れ^れ後^ごと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
之^{これ}人^{にん}の^の交^{かう}友^{ゆう}也^や分^{ぶん}れ^れ後^ごと^とな^なれ^れう^う
世^せハ^ハこれ^{これ}の^のあ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^う
之^{これ}乃^の子^しと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
あ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
あ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
あ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う
あ^あら^らう^うと^とな^なれ^れう^うと^とな^なれ^れう^う

あくゆたたりぬりあり

有流乃皆あり 先流氏ハすやうはあまの牛車

乃宣とくありし女也よ太政大臣ハゆり敷の

とせし世はつらとさうおこあひあつらひなよ

有流とハ流氏れ急の牛也蓋太おとてハ内大

臣りぬりて世のすうとじのありうらうの有流

ハ内河よりハあがくとまも也又一系ハ今よは

とて有流とす白文は後よつとまひて有流

乃内河より流はらとくはまも也

二系ハまもりのちと 蓋ハ内河はらとくハ急の

は娘母ハ内大臣乃女也とすく徳角ハ急の

同流ハ娘也通昔中急と号ハ内河角ハ急の

白文ハ初とく早蕨ハ急とよ二系流ハまもり

也まもり急とす内河中急とすまもり急とす

白文ハ内河ゆつらハ急ハ急の急ハ急とす

ハ急とす也

今とすハ急の急とすハ急とすハ急とす

白文ハ急とすハ急とすハ急とすハ急とす

も急とすハ急とすハ急とすハ急とす

たまたのちのち 夕舟六のちのちの母の推定が後

故重れ内侍ややり本乃由よ白き部アリ

まのまのひと雨香敷の女流とぞ尸のくも也

本邦の娘名 蜻蛉部羽分れ交ハ酒氏は名也

流れる流もそ中やうきろくの世よの世のそと

くゆいば娘交れ名とておんきと又中流の交

をのひく後まゝ母乃舟る部がゆいをまき

きうー明石れ才交ゆしめこれじくさうて明石

乃一邦交れらうりなせのひく交れ名に尸

聖徳太子 三十五

まどうき一人也

まどうきのみまど 白交れ本也

ワタノアサの志とせあらんとく 若たはれは

交れ名よちづかてしとせ一のよとと名流の交

候くびあひをりよとたおはまがらとてうれ

やと交まうあひとせとてまらんとくわが

ひのまきとて一人也

みらもつとせうまきとハ 若たよとてせのひ

オと流さまらうあひのふととよはくふふとら

くつひらうりまれまらぶうとすわりとて

女二れ女の東乃^{あつち}意なきとてさうさうに候り
今上乃女二の文ハ母ハ友妻ニ書けや寄本の
中乃内乃はささくやく甚だ大なるを舞よらり
ゆふ飛^い香舎^{かや}れ落^ちの意乃日一ふれ文と大
かの一ゆへり女二れ文もさうさうあべてり
いはくゆへり婦^{あま}文うらうらとゆへりもあがりし
ゆりずとや東^{あつち}の意とハ小中^{こちゆう}の候意^いは
あり今ハ本^{ほん}妻^{さい}女二れ文とハ野^のれ候意^いも
ゆへりさうのさうさうさうさう

